

2 研究の実際 > (2) 「強み」に関する活動プログラム

力 「強み」に関する取組

本研究では、児童生徒が日常的に自分や友達の「強み」を意識したり生活の中で「強み」を生かそうとしたりする姿を目指して、3時間の授業実践以外にも、児童生徒の発達の段階や学級の状況に応じて「強み」に関する継続的な活動等に取り組みました。

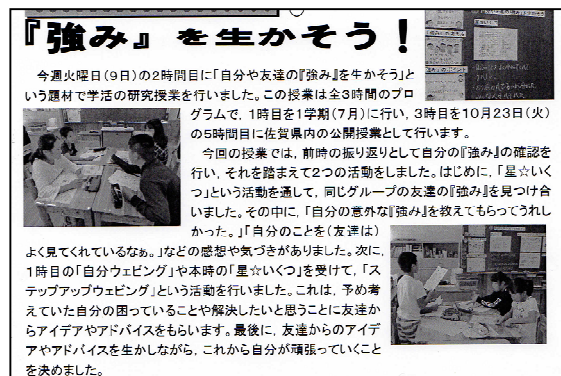
以下に、小学校、中学校、高等学校の「強み」に関する取組例を紹介します。

★ 小学校（実践した取組と今後実践したい取組）

○実践した取組（～10月末）

【学級通信】

3時間の授業実践後に、学級通信で、学習内容や児童の様子を保護者に知らせました（資料1）。家庭と協力して子供たちの「強み」を見付け、褒め励ましたり、「強み」の生かし方をアドバイスしたりすることにより、子供たちの自己肯定感を高めていきたいと考えています。



資料1 交流活動の様子を伝える学級通信

【個人懇談】

1学期末の個人懇談で、ワークシートを提示しながら児童の「強み」について話をしました。家庭でも、「強み」を話題にしてほしいと願っています。

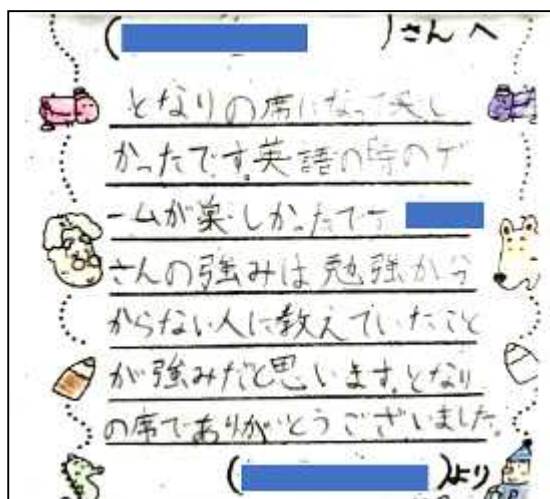
【日々の言葉掛け】

教師自身が、日常的に「そういうところは〇〇さんの『強み』だと思ふよ」などと、子供たちに言葉を掛けるようにしています。子供たち同士も、自然に、「強み」という言葉を使って会話をしている様子も見られるようになってきました。互いに見付けた「強み」を伝え合うことにより、一人一人が自信をもって発言したり行動したりすることができるようになってきていると感じます。この取組を学年末まで継続することにより、自己肯定感が高まると考えています。



【席替え前のメッセージカード交換】

席替えの前に、隣の席の友達の「強み」をカードに書いて交換しています（資料2）。子供たちは、カードに目を通しながら、照れ笑いをしたり笑顔になったりしています。カードはクリアポケットに入れて背面に掲示して、いつでも見ることができるようにしています。この取組を学年末まで継続して自他の「強み」を知ることにより、自己理解や他者理解が深まると考えます。




資料2 児童が書いたメッセージカード

○今後実践したい取組

【行事との関連】

運動会や学習発表会等の行事の前に「強み」を意識して役割分担をさせることにより、意欲的な活動を促すことができると考えます。また、行事の後に「星☆いくつ」の交流活動に取り組みさせて自分や友達の頑張りを肯定的に振り返らせることにより、自己理解や他者理解が深まったり自信につながったりすると考えます。

 中学校（実践した取組と今後実践したい取組）

○実践した取組（～10月末）

【通信】

3時間の授業実践後に、学級通信や学年通信で、学習内容や生徒の記述、授業中の写真等を生徒と保護者に知らせました（資料3）。友達が書いた感想を紹介したり、教師のコメントを書き添えて肯定的なフィードバックを行ったりすることにより、学習内容の理解の更なる深まりが期待できると考えます。また、家庭と協力して、生徒たちの「強み」を見付け、褒めたり励ましたり、見付けた「強み」を生かすようにアドバイスをしたりしていくことにより、生徒たちの自己肯定感を高めていきたいと考えています。



資料3 交流活動の様子を伝える学級通信

【日々の言葉掛け】

教師自身が、日常的に「そういうところは○○さんの『強み』だと思っよ」と、生徒たちに言葉を掛けたり教師のコメントで書いたりするようにしています。子供たち同士も、自然に、「強み」という言葉を使って会話をしている様子も見られるようになってきました。互いに見付けた自他の「強み」を伝え合うことにより、一人一人が自信をもって発言したり行動したりすることができるようになっていると感じます。この取組を学年末まで継続することにより、自己肯定感が高まると考えています。

【行事との関連】

文化発表会の役割分担を決める際に、自分の役割を迷って決めることができない生徒に、自分の「強み」を振り返らせ、「強み」を生かすことができるように言葉掛けを行いました。このことにより、自信をもって活動に参加することができたと感じました（資料4）。



資料4 行事での活躍を伝える学級通信

○今後実践したい取組

【行事との関連】

中学3年生の入試対策において、趣味や特技を考えたり、面接時の自己PRを考えたりする際に、「ストレングス・グッズ」を参考にすることは、生徒が自信をもって進路実現に向けた努力をすることにつながると考えます（資料5）。



資料5 「ストレングス・グッズ」

★ 高等学校（授業以外での活用と効果）

① 学級通信や三者面談資料として

3時間の授業実践後に、学級通信を作成して、学習内容や生徒の記述、授業中の写真等を生徒と保護者に知らせます。友達が書いた内容を知ることにより、学習内容の理解の更なる深まりとともに、友達への承認感の高まりが期待できます。また、その際に、教師のコメントを書き添えて肯定的なフィードバックを行うことにより、その効果がより高まると考えます。さらに、学級通信や授業のワークシートを三者面談時の資料として活用することにより、前向きな視点での情報共有や話し合いにつながると考えます。



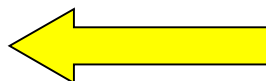
② 進路選択時の自己分析として

自他の「強み」を伝え合う交流活動を通して、互いの「強み」を知ることが、進路選択において、自分の苦手なことや課題等に向き合う際に生じる生徒の心理的負担を軽減することが考えられます。また、友達から伝えてもらった「強み」も参考にしながら、自己分析を行うことにより、自分の「強み」を生かした進路選択につなげることが期待できます。



③ 進学や就職に向けた自己PRとして

自分が気付かなかったり思いもしなかった「強み」を学級の友達から伝えられたことは、生徒の自己肯定感だけでなく、友達に認められているという承認感やこれから自分がやっていけそうだという自己効力感の高まりにもつながることが考えられます。授業後の様々な生徒の変容をフィードバックしながら、3時間の授業後に配付した「ストレンクス・グッズ」（資料6）を参考に、履歴書の「趣味・特技欄」を作成したり面接時の自己PRを考えたりすることは、生徒が自信をもって進路実現に向けた努力をすることにつながると考えます。



資料6 生徒に配付した「ストレンクス・グッズ」